

2014（平成26）年度

F D研究部会活動報告書

第6号

徳島文理大学
徳島文理大学短期大学部

F D 研究部会活動報告書

目 次

1. はじめに	1
2. F D活動の内容	1
3. 研修会・講演会	2
4. 全学授業評価アンケート	3
5. 研究授業	5
6. 卒業生満足度評価アンケート	11
7. 教育環境	12
8. おわりに	13
9. 用語解説	14

資 料 編

1 F D研究部会会議	15
2 研修会・講演会	17
3 全学授業評価アンケート	21
4 研究授業	28
5 卒業生満足度評価アンケート	32

1. はじめに

「徳島文理大学FD研究部会」は、学士課程のFD義務化を受け、全学的FD活動の推進・支援を目的として平成19年12月に設立された全学委員会の一つである。設立以降の活動の詳細は、「FD研究部会活動報告書」（平成22年5月創刊、以降年次刊行）にまとめられている。本報告書（第6号）は、平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）の活動成果抄録である。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部のFD委員までお寄せいただければ幸いである。

2. FD活動の内容

FD研究部会は、部会長、短期大学部を含む全学部より選出された部会委員に加えて両キャンパスの教育・研究支援グループ委員で構成され、月例のFD研究部会において5項目（①研修会・講演会、②全学授業評価アンケート、③研究授業、④卒業生満足度評価アンケート、⑤教育環境）の活動を分担して行ってきた。（資料編1）

FD講演会・研修会は、昨年度より継続してアクティブ・ラーニングの普及に軸をおくとともに、新たな視点として、受け手の学生側目線をテーマにした研修を企画した。さらに、教職員の皆様にはSPOD主催の多様な研修会への参加をいただくとともに、近畿・中国地方のコンソーシアム主催の研修会等へも積極的に参加いただけるようになった。これをきっかけとして、様々なメーリングリストにも加盟できるようになったことで、より多様な研究会・ワークショップのインフォメーションを活性化させ、更なるFD活動の活性化に寄与していきたいと考えている。

次年度以降への課題としては、より多くの教職員の参加を促すことである。長期の実習や演習を必須とする学部・学科を多く抱えている本学の特性から、研修会開催時期にやむなく参加できない教職員も少なからずおられる。DVD等を後日閲覧できるようにしているが、開催時期、回数等、あるいはキャンパス毎、学部単位での開催も含めて検討していく必要がある。

全学授業評価アンケートについては、本年度は後期実施とした。単年度の評価を真摯に受け止めるとともに、複数年の横断分析が可能なシステムをより活用いただき、よりわかりやすく効果的な授業に向けた改善の取り組みを進めていただけることを期待したい。さらに、アンケート項目、実施時期、方法等を含めた全面的なシステムの改良に向けて議論を深めていきたい。

研究授業は、講義科目中心の授業参観型に加え、課題解決型や実習・演習科目の開放など新たなプランも積極的に取り入れていただいた。次年度は、さらに多くの先生方が自らの授業等に効果的な創意工夫の一助にいただけることを期待したい。また、たとえばチーム医療学習の一環として、学科を横断した実習・演習も多く実施されている。複数の教員がこれに関わり、次回の授業へ向けたブラッシュアップを行っていけば、まさしくアクティブ・ラーニング型の研究授業に他ならない。次年度は、各学部・学科からこのような授業についてもリストアップしていただき、研究授業の一環に取り入れていただけることをお願いしたいと考えている。

卒業生満足度評価アンケートについては、一昨年の報告書において詳しく分析していただいた。また、一部学部で電子化を行ったが、回答の偏り等はなく、授業評価アンケートとともに、今後検討していく可能性が高まった。ただ、業務担当者の負担は想像以上であり、電子化を実施するに当たっては、相応の準備と予算化が前提となる。

最後に、現状調査と課題把握を目的に両キャンパスの教育環境について調査を開始した。キャンパス毎にシステムが微妙に異なること、施設については、とりわけアクティブ・ラーニングの実施に際し、学生が積極的に参加できる環境整備にはより一層の工夫が必要であることが浮き彫りになった。学生が日常使い慣れている情報機器を活用したシステム化の検討も今後の課題といえる。

3. 研修会・講演会

3-1 現状

F D活動は本学の大学教育の質的な向上などを目的とした活動で、主に授業改善のための教授法の普及活動と捉えているが、その取り組み方は多岐にわたる。F D活動では個々の教職員がその重要性を理解し、それぞれの教育場面で継続的に自ら改善に取り組むことが重要である。平成26年度は、改善に必要な知識や技術を修得・普及するため本学学内で研修会・講演会を2回実施（香川キャンパス、徳島キャンパスを主会場として各1回実施、他キャンパスには同時遠隔配信）した。（資料編2-1）

第1回は平成26年9月11日（木）に、香川キャンパスを主会場として、岩中貴裕先生（香川大学大学教育開発センター 准教授）を香川キャンパスにお招きして、「学生に学ぶ意欲を引き出す授業とは？」をテーマに講演をしていただいた。参加者数は、70名（香川25名、徳島45名）であった。研修後のアンケートは、58名から回答があり、「全体的に満足できるものだった」とする者が回収数比で70.2%、「どちらかといえば全体的に満足できた」とする者が同じく28.1%であり、これらを合わせると98%で参加者に好意的に捉えていた。

第2回は平成27年2月20日（金）に、徳島キャンパスを主会場として、埴 雅典先生（山梨大学工学部 教授）を徳島キャンパスにお招きして、「反転授業～主体的な学びを引き出すアクティブ・ラーニングの取り組み～」をテーマに講演をしていただいた。参加者数は、77名（徳島42名、香川35名）であった。研修後のアンケートでは、「今後の授業改善のために大いに役立つ内容であった」とする者が回収数比で71.4%を占め、「参考にすべき内容がいくつかあり、まずまず良かった」とする者が28.6%であり、全員の回答者から好評を得た。また、自由記述欄には、今後の研修会・講演会や本学F D活動自体への要望・問題点など多数の建設的な意見が出された。

加えて、本学以外の会場で開催される「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」研修プログラムのうち、遠隔配信プログラムを徳島・香川の両キャンパスにおいて3講座実施した。その他、新任教員研修会、SPODフォーラム2014など各種研修会の案内を学内教職員に配信し、参加への情報を提供した。（資料編2-2、資料編2-3）

3-2 点検・評価

F Dに関する研修会・講演会は、F Dの意義やその必要性について多くの教職員の理解を深め、意識を高めるとともに、実際の授業改善に寄与するスキルアップの機会の提供を目指している。こうした方向性に沿って、これまで本学のF D研修会・講演会を実施してきた。

研修会後のアンケート結果からは、参加者の多くがF D活動の意味やそれに取り組む必要性などについての理解が徐々に深まっていることを確認できる。また、自由記述欄から、多くのF D活動に参加している教員は実践できる内容のプログラムを求め、講義の更なる質的向上に努めている。本学で開催した研修会・講演会の参加者数は年々増加傾向にある。こうしたことから、F D研修会・講演会は、本学のF Dについての理解の促進や意識変革、授業法のスキルアップの面等で有意義な貢献を果たしていると評価できる。

一方で、日程的な都合から参加できなかった教職員も多く、今年度から一部期間等の制限はあるものの、録画サーバーあるいは記録DVDによる配信が行えるようになった。より多くの教職員がF D活動に自発的に参加するためには、更なる改善が必要である。多様性の高い受講者のニーズにマッチングした内容の研修会・講演会を適時提供することが重要である。

3-3 改善計画

本学のF D活動の進捗状況や各学部の教職員の多様性に富んだF D研修へのニーズを適切に見極めた上で、本学に必要な研修会・講演会を適時、継続的に実施することが重要である。アンケートでは、研修会・講習会への参加者増を求める声とともに、実際の講義に直ぐにでも導入できる実践的内容を求める意見や、研修会での具体的な例示に対する要求が高い。

本学教員の関心が高いテーマを厳選し、多様性に富む個々の教員の教育力の向上発展につながるような研修の機会作りに取り組む。教員個々により要求内容が細分化されているため、SPODをはじめ他大学が持つ研修資源を積極的に活用し、研修機会の充実に努める。また、今年度から始められた研修会・講演会の録画サーバーあるいは記録DVDによる配信の更なる利便性に努め、その伝達活動も考慮していく必要がある。さらに、F D活動に参加されていない(できない)教職員への更なる情報提供と利便性の工夫が必要である。

4. 全学授業評価アンケート

4-1 現状

平成 26 年度の授業評価アンケートは、後期に実施し、昨年度と同質問のマークシート方式によって回答された。また、集計結果と教員からのフィードバックは、Web ページで開示された。

授業評価アンケートの実施体制について、アンケート回答自体の電子化といったシステム導入の検討が続けられていたため、現在の方式は年1回実施の状況となっている。これについてシステム導入との兼ね合いから来年度以降の年2回実施やその他の可能性について議論を続けているところである。

4-2 点検・評価

(1) アンケート実施について

アンケートは後期の11月10日から21日まで徳島キャンパスは46科目の受講者のべ2,114人（10人未満2科目）、香川キャンパス25講座の受講者のべ908人（10人未満2講座）で実施された。

(2) アンケートの結果について

平成26年度のアンケート回答者数は29,157名（学部27,051名、短期大学部2,106名）であった。評価平均点が最も高かったのは「あなたはこの授業にまじめに出席しましたか」（4.49）であり、続いて「授業に対する教員の熱意は感じられましたか」（4.36）、「あなたはこの授業を理解しようと努めましたか」（4.32）であった。学生・教員双方の授業に対する姿勢に関しては前向きな傾向が見て取れる。

一方、「あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか」（3.23）、「この授業の内容は理解できましたか」（3.98）などの項目で点数が相対的に低くなっていることから、業外での学習機会あるいは時間の確保が難しいことや、授業内容の理解について学生自身が達成感を得られていない可能性が示唆されている。学習機会の確保と理解の達成の関係については本アンケート結果のみではわからない。こうした傾向は、数値の微妙な変化はあれ、昨年とほぼ同傾向であると考えられる。

設 問		全体	学部	短期大学部
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.49	4.50	4.38
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.32	4.32	4.33
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.23	3.23	3.22
4	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.25	4.25	4.26
5	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.36	4.35	4.45
6	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.19	4.18	4.32
7	教員の説明はわかりやすかったですか	4.12	4.11	4.26
8	教科書や教材（プリントなど）は適切でしたか	4.20	4.19	4.34
9	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.16	4.15	4.22
10	この授業の内容は理解できましたか	3.98	3.97	4.13
11	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.13	4.12	4.24
12	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.21	4.20	4.35
回答数		29,157名	27,051名	2,106名

(3) フィードバックについて

評価結果に対するフィードバックとして、教員によるアクションプランシートのWeb入力と学生への開示が行われた。集計結果とアクションプランシートの開示期間は、平成27年4月1日から平成27年6月30日までとした。また、開示範囲は学内のみとし、キャンパス毎にパスワード付きのPDFファイルが学内サーバーで公開された。

4-3 今後

授業評価アンケートに関する今後の計画は、電子化システム導入の検討とクォーター制導入による実施機会増加などの諸事情を踏まえて決定される。また、授業評価アンケート自体の実施意義を省みて、これまでの調査結果をもとにした取り組みについても具体的に把握をする必要があることも話し合われた。

5. 研究授業

5-1 現状

本学は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部で研究授業を実施しており、今年で 7 年目となっている。平成 26 年度は、徳島キャンパスで 12 科目（前期 2 科目、後期 10 科目）、香川キャンパスで 8 科目（前期 3 科目、後期 5 科目）、両キャンパス合計 20 科目の研究授業が行われた。そのうち 2 科目は、文学部における新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）も含まれている。各学期の実施回数は、学部及び学科の教員数・講義数の実情を踏まえながら決定している。

研究授業は「教員相互による授業参観型」「目標設定型」「オープンクラスウィーク」という 3 つのスタイルから選択する手法を取っている。今年度は、アクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業の推進も行った。

(1) 目的

本学において、研究授業開始当初より実施されている「教員相互の授業参観型」のスタイルは、授業参観者が参観を通して参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かし、授業改善を通して各教員の教授法の向上を目指し、学生の理解力や思考力の向上を目指すことを目的としている。授業担当者の教授法に対し、悪い点を指摘するためのものではない。

一昨年より導入した「目標設定型」は、従来型の「教員相互の授業参観型」とは異なり、教授方法や授業運営上の改善点をあらかじめ設定し、調査・研究するものである。効果的な授業技術の掘り起こし、またそれらの共有が主な目的となる。「オープンクラスウィーク」は、1 週間の授業参観可能期間を設定し、教員が参観しやすい環境を設けた。

(2) 実施方法

研究授業の取り組みは、昨年度に続き「教員相互による授業参観型」「目標設定型」「オープンクラスウィーク」の 3 つの選択肢を設け、実施を依頼した。各学部及び学科は、まず「教員相互による授業参観型」もしくは「目標設定型」のどちらかを研究授業として選択し（両方実施も可能）、さらに希望する学部及び学科は「オープンクラスウィーク」も実施した。

昨年度との違いは、前期の実施については学部及び学科に任せ、後期はアクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業の実施を積極的に行うよう促したことである。

「教員相互による授業参観型」の実施方法は、まず学期始めに、各学部及び学科の授業担当者と研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業とする科目及び実施日を決定する。実施科目と実施日については、FD研究部会が全学の教員に対して周知し、出席を促した。参観範囲はこれまで同様、所属学部に関係なく誰でも参観可能とした。1 講時 90 分の内、原則として授業開始から 60 分を授業参観とし、残りの 30 分を授業担当者と授業協力者、そして授業参観者による意見交換会の時間とした。研究授業の進行及び記録は授業協力者によって進められ、意見交換会では「1. 目的」にあるように研究授業の主旨に基づき、授業全般、学生の様子や反応、教員と学生の相互作用などについて討議が行われた。研究授業の記録は、別紙の様式（資料編 4-3）にて授業担当者と授業協力者によって作成され、その記録用紙は、研究授業実施後 2 週間以内に各学部の FD 研究部員を通して FD 研究部会へ提出するようにした。

文学部においては、「教員相互による授業参観型」として対象としている科目の他、新入生宿泊セミナー研修で 2 日間にわたりグループワークをファシリテートする教員に対し、それらを公開授業として FD 研究部会の研究授業に取り入れた。

「目標設定型」は、事前に授業技術向上のための目標（テーマ、新しい取り組み）、実施期間（目標を達成するために必要十分な日数を設定する）を各学部及び学科内で決定し、各学期始めに学内で公表した。設定期間内に達成可能な目標を定め、その取り組みを実際に講義で実施した。設定期間終了後、実施代表者は速やかに、実施した授業技術向上のための取り組みについて研究授業の記録（資料編 4-4）を作成し、FD 研究部会に提出した。

「オープンクラスウィーク」は、ある一定期間内に、すべての講義を自由に聴講できる期間を設けたものである。その期間内、対象となる科目の教員に対しては、期間中は講義室後部に椅子を設置し、ドアの解放等、講義中に他の教員が自由に聴講できるような環境作りをした。評価は、聴講した教員が聴講回数及びコメント等を FD 研究部員へ報告する形を取った。

5-2 点検・評価

平成 20 年度から全学的に始めた研究授業（教員相互による授業参観型）は 7 年目を迎えている。実施科目数はその年により変動はあるものの、これまで年間 30 科目前後が実施されてきた（表 1）。昨年度は 29 科目、今年度は 20 科目と減少しているが、これは、後期にアクティブ・ラーニングを取り入れた講義の研究授業を推進するため、前期の研究授業実施の判断を学部及び学科に任せためである。授業参観者数は平成 24 年度をピークにそれ以降減少している（表 1）。これは、近年から課題となっている研究授業のマンネリ化、また、各学部及び学科のほぼ全教員が研究授業を経験しているという状況が減少の背景にあると考えられ、研究授業の意義が問われていると考えられる。今後、より多くの教員に参加してもらうために、研究授業に参加してもらえる環境を整備することはもちろんであるが、7 年間の研究授業の効果を評価、検討し、研究授業の有用性について議論する必要がある。

各学部及び学科で実施された研究授業から提出された報告書によれば、「効果的な資料の作成方法、授業の振り返りの仕方、具体的な教育方法等が参考になった」との意見が挙げられた。一方、「板書の必要性、他科目とのつながりや情報共有について、学生に答えさせるための順番」など、授業をより良くするための改善点や意見が、授業担当者に対し出された学科もあった。(表2)

従来型の研究授業(教員相互による授業参観型)のマンネリ化が見え始めた時、新たな取り組みとして実施したのが、目標設定型の研究授業とオープンクラスウィークである。今年度の目標設定型の実施は、音楽学部と理工学部の2学部3学科で行われた。音楽学部は、後期の中で長期間設定され、理工学部ナノ物質工学科と電子情報工学科は、1日に限定して実施された。

音楽学部の研究授業の目的は、「アクティブ・ラーニングを取り入れた講義への学生の興味と出席率の向上」であり、アクティブ・ラーニングを取り入れた結果、出席率と単位修得率が向上し、講義全体への高い興味が見られたと報告を受けている。また、理工学部ナノ物質工学科の研究授業の目的は、「課題に対して自ら調査し独自の切り口で発表する」であった。学生が、課題に対して自ら調査した結果、緊張感や真剣さがアップし、指導教官や研究分野の常識にとらわれない調査やプレゼンテーションをさせることが効果的であったと報告されている。また、「卒業研究に対してやる気が増した」という学生の意見もある。理工学部電子情報工学科では、研究授業の目標を「キャリア教育におけるグループワークの導入」とし、グループワークを導入した結果、通常の授業形式の時より、積極的な参加の印象があったと報告されている。(表2)

しかし、目標設定型はその評価方法が実施科目により異なるため、研究授業の評価が難しいことも事実である。今後、目標設定時における評価の基準の設定方法を検討する必要がある。

オープンクラスウィークについては、平成23年度に理工学部が試験的に取り入れ、その翌年から希望する学部は実施するようになった。理工学部は毎年実施しており、今年度は文学部が初めて実施した。それぞれの実施期間は、理工学部(10月27日~10月31日)、文学部(12月8日~12月12日)であった。各学部のFD研究部員からの報告によると、オープンクラスウィーク実施後、理工学部においては各教員からの報告はなかったが、次年度も実施していく意向である。(表3)文学部においては、初めての実施ということもあり参加者数は1名のみ、ほとんどの教員が授業参観型にのみ参加したという結果になった。文学部では、1週間の全科目が対象となり選択肢が多いこと、また教員のスケジュールなど、参加者が少なかった原因については複数考えられるが、もし次年度も実施するとすれば、教員同士がお互い自由に、気軽に見学し合えるような工夫、参加しやすい雰囲気や状況を作る所から考え直す必要がある。さらに、オープンクラスウィーク後に教員同士が議論する場が必要となると考えられる。

5-3 改善計画

これまで、研究授業のマンネリ化を防ぐための改善策として、オープンクラスウィークや目標設定型という取り組みを取り入れ、さらに今年度は、後期よりアクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業の推進を行ってきた。次年度は、各学部及び学科がより

適当であるとする研究授業の手法を選択していく中で、オープンクラスウィークと目標設定型の研究授業については、その意義について見つめ直す必要がある。特に、オープンクラスウィークは、試行期間を含めると実施開始より4年が経つため、これまでの実施により、成果が得られたかを評価する必要に迫られている。評価結果を精査した上で、積極的な取り組みを促していきたい。最近の教育改革の中で、アクティブ・ラーニングは積極的に取り入れることが求められている。この点を踏まえ、アクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業の実施は、次年度も継続して実施していきたい。

研究授業開始から7年間が経過しているが、これまで、研究授業の成果について評価が行われていない。より良い授業は、授業参観者の増員につながることも期待される。次年度は、研究授業の成果について評価を行い、授業改善につながる成果が上がったかを精査し、研究授業の在り方、授業改善への導き方を検討していきたい。その上で、研究授業を通して、各教員の授業改善や教授法の向上につなげ、教員の教育力の向上によって、学生の理解力や思考力が向上し、教育の成果が上がるような研究授業の実施を構築していきたい。

表1 学部・学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数(名)の推移

年度 学期	平成20年 2008		平成21年度 2009		平成22年度 2010		平成23年度 2011		平成24年度 2012		平成25年度 2013		平成26年度 2014	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
年間研究授業実施数	29	22	10	17	12	16	16	17	18	12	17	5	15	
香川薬学部	薬	28	24	—	14	14	32	25、18	25、22、26	19、25、26	15	19		13
文学部	日本文学	9	9	8			9			9			9	
	英語英米文学	1	3		4			2			3			4
	文化財	3	3			26				5		23		
	宿泊セミナー合計						12		14		8		6	
	学部合計	13	15	8	4	26	21	2	19	9	11	23	15	4
理工学部	機械創造	6		8	10		7			6		4		2
	電子情報	—、—	6			4		5		目標設定型		目標設定型		目標設定型
	ナノ物質	6		10		6	4			4	5			目標設定型
	臨床工学	—	8		11			2						
	学部合計	12	14	18	21	10	11	7		10	5	4		2
薬学部	薬	10	5		7	5	7	8	5	2	7	4	7	7
人間生活学部	人間生活	6	—		5			2		1		2		2
	食物栄養	3、3	4、3		3			4	4			2		1
	心理	2、3	5、4		2			5	2			1		2
	児童	4、4	2、3		6				5		1		2	2
	バリエーション	4、6	4		3		4		目標設定型	4		目標設定型		1
	建築デザイン	4、2	3		4		3		5			2		1
	学部合計	41	28		23		12	11	11	6		9		9
総合政策学部	総合政策	10	11	8	8	5	6	6	8	4	5	6		6
音楽学部	音楽	13	3	4	2	3	3	4	3	3	3	0		目標設定型
保健福祉学部	臨床工学								8			6		
	診療放射線									7	5			
	人間福祉	4、5	1	2	2	3	3	1	1		1	1		
	理学療法					1	1	4	3	—	2	0		
	看護	6、10	5	17	14	12	6	6	8	8	8	8	8	13
	学部合計	25	6	19	16	16	10	11	20	15	16	15	8	13
短期大学部	保育	5	4											
	生活科学		5	4				3						
	商科	4			2		3							
	言語コミュニケーション				4	3	5			0				
	音楽			6		4		3						
	学部合計	9	9	10	6	7	8	6		目標設定型				
前・後期別参加者数	161	115	67	101	86	110	98	139	119	62	80	30	54	
年間参加者総人数	161	182		187		208		258		142		84		

表2 各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

[教員相互による授業参観型] 授業参観者の意見 (研究授業報告書より一部抜粋、●好意的な意見 ■批判的な意見)
<p>薬学部薬学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言語がはっきりしていて分かり易く、ペースも良い。また文字も大きく見やすい。 ● 学生の理解度(反応、様子)を確認しながら講義が進められていた。 ● オリジナルのテキストが分かり易く使いやすい。配布資料も充実している。 ■ 出てくる化合物名は言葉だけでなく、黒板に書いてあげる方が良いと思う。 ■ Claisen 縮合を学んでから1年過ぎており、はじめに簡単な復習があると良い。
<p>人間生活学部食物栄養学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生にマイクを渡し、質問に答えさせることにより、学生の講義の参加を促している。 ● 一見ゆっくりと進行しているようであるが、1時間を終えた時点でかなりの分量が進んでいる。
<p>人間生活学部児童学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ発表の仕方を示すことはレベルアップに効果的であった。 ● 各班の発表に先生のコメントをいただき、同じような発表にいろんな見方からやる気を引き出しておられた。
<p>人間生活学部心理学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生の個の活動、グループワーク、全体活動と学生一人ひとりの関与度が高いと感じた。 ● グループの討議も積極的に行っていたので、驚いた。
<p>人間生活学部メディアデザイン学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義資料としてパワーポイントの視聴覚資料と、手書きで追記しやすい大きさ、レイアウトの B4 サイズの紙資料を配布していたのはよかった。 ● 数学が苦手な学生でも興味を持てるトピックが選ばれていた。
<p>人間生活学部建築デザイン学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義に無駄がなく、講義効率が良かった。 ● 多様な講義技術を駆使され、生々とした授業でした。
<p>人間生活学部人間生活学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受講者に考えさせることを意識した授業でした。 ● スライドとプリントが効果的に使用されていました。補足説明で理解させようとする意図が見られた。
<p>保健福祉学部看護学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前学習や準備を周知徹底させるのは大変ではなかったのかと思う。良い演習を見学でき参考になった。 ● シミュレーター教育の振り返りが大切ということを実感することができた。 ● 授業開始(導入)時に、本日の授業内容を提示し、知識の振り返りをしていたので、学生が何を学ぶのかが明確になって良い。 ● アクティブ・ラーニングとして、発問を取り入れ学生との相互作用を工夫されていた。 ■ グループワークの方法を知らない学生も多いので、今後これについても対処していく必要がある。 ■ 答える学生の順番が決まっており、他の学生は自分には当たらないので、緊張感が緩む可能性がある。答えさせる学生の順番を工夫することも重要である。 ■ (他の科目との)学習内容の縦と横のつながりを強化して、情報共有を図っていく必要もあると思われる。
<p>総合政策学部総合政策学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義の進め方として身近な問題をともに考えるというコンセプトに特徴がある。 ● 事前学習に基づいているのはよい。 ■ グループディスカッションの形式を取り入れるのはどうか？

香川薬学部薬学科

- 教科書を直接には使用せずに、主に配布プリントの穴埋めに学生が適宜記入していく方法で進化した。なお講義途中で、何度かの閑話をはさまれ、学生を飽きさせない工夫が見られた。
- (教科書を持って来ることを要求していないことに対して)プリントさえあればこの講義は受講することができて、また、黒板を何度も消したりすることもなく板書もシンプルであるので、学生は集中することができて良いと思います。
- (穴埋めを主体にした教授法に対し)もう少し文段的に理解させる方向が望ましいと思う。

文学部日本文学科

- 学生の集中力を切らせないよう授業することは困難であるが、その中で効果的な資料等を作成して興味を持たせるための工夫をしていたことは参考になった。

文学部英語英米文化学科

- 音声資料に基づきその場で発音を確認でき、学生も各自の発音を確認でき、かなり有効な教育方法であると思われた。
- 漫然とモニターを見ているだけの学生もおり、そのような学生をどのように講義に積極的に参加させるのかという問題点があるように思われた。

理工学部機械創造工学科

- 宿題を先生が整理し、特徴ある解答を紹介するやり方は良いと思った。
- 前回の復習⇒本日の授業⇒次回への宿題と復習がきちんとされていて受講者が繰り返し学習する教え方は非常に良いと考える。

[目標設定型] 具体的効果(研究授業報告書より一部抜粋)

音楽学部音楽学科(平成26年9月20日～平成27年2月2日)

目標:アクティブ・ラーニングを取り入れた講義への学生の興味と出席率の向上

結果(効果):出席率と単位修得率の向上し、居眠りする学生がいなくなった、講義全体への高い興味が見られた。

理工学部ナノ物質工学科(平成27年2月12日)

目標:課題に対して自ら調査し独自の切り口で発表する。

結果(効果):卒業研究を開始する時期に行ったことで、緊張感や真剣さがアップしたように感じた。指導教官や研究分野の常識にとらわれない調査やプレゼンテーションをさせることは効果的だと思った。「研究面だけではなく社会での役割や地域貢献という立場での意識をすごく持ち卒業研究に対してやる気が増した」という学生の意見があった。

理工学部電子情報工学科(平成26年12月5日)

目標:キャリア教育におけるグループワークの導入

結果(効果):通常の授業形式の時より、積極的な参加の印象があった。

表3 オープンクラスウィーク実施学部からの報告

理工学部(平成26年10月27日～平成26年10月31日)

- 新鮮さを感じなくなったということがあるように感じる。
- オープンクラスウィークの必要性は感じているようなので、参加者数は少ないもののこれからも継続的に実施する予定である。

文学部(平成26年12月8日～平成26年12月12日)

- 教員は授業参観型の方には参加している。
- 各教員は多忙であり、どの授業でもいいと言われると、かえって行きにくいかもしれない。
- 自分の授業が見学されるのは緊張するため、相手に負担をかけたくないという心理もあったかもしれない。
- FD研究部員としては、今後なるべくお互いに自由に気軽に見学し合えるようなしつけや雰囲気を作っていく必要があると感じた。

6. 卒業生満足度評価アンケート

6-1 現状

「卒業生満足度調査」は、入学から卒業までの期間において、学生が卒業時に本学での学生生活を振り返り、大学への満足と改善を図ることを目的として行われ、外部への発信の役割も併せもつものである。

平成 21 年度～平成 24 年度（4 年間）については、調査経過を踏まえながら、『平成 24 年度 F D 研究活動報告書』にその分析経過と課題提言が行われている。また、昨年度（平成 25 年度）には、それまでの 4 年間の評価を踏まえて、各調査項目を検討し、教育方法が改善できるような観点に立った質問項目に変更された。今年度（平成 26 年度）は、F D 研究部会で検討した結果、質問項目は前年度と同じとした。

6-2 点検・評価

全体の評価の概要を検討すると、全体の評価で一番得点が高かったのは、IV-4 の「よき友と出会えましたか」であった。これは昨年度と同じである。本学での学生交流促進の各種イベントがプラスに影響していると考えられる。

一方、一番得点が低かったのは、II-6 の「宿題やレポート提出が多いと感じていましたか」であった。これも昨年度と同じである。質問内容を鑑みると、宿題やレポートの量と卒業生の満足度との間に強い相関関係があるとは考えにくいので、この項目の評価が低いことに過剰に反応することはないが、学修を促すという意味から見れば、もう少し課外学修の機会を与えるのが良いのではないだろうか。なお、この質問項目のポイントは、昨年度 3.17 であったが今年度は 3.27 に増加している。この傾向を維持する心がけが必要である。

全体の評価が 4.0 以下だったのが先の「宿題やレポート提出が多いと感じていましたか」と「クラブやサークル活動は参加しやすかったですか」であった。これは数の上から言えば、昨年度より減少しており、全体的に評価ポイントが上昇していることを表している。

6-3 新しい試み

卒業生満足度調査アンケートは、平成 21 年度の開始当時から紙媒体のアンケート用紙を利用して、学位記授与式（卒業式）後のオリエンテーション時に（一部の学科では、学位記授与式の数日前に）卒業生に回答をしてもらっている。この方法の問題点として、①学位授与式後では落ち着いてアンケートに答える時間を確保しにくい、②回答データの集計に莫大なコストと時間がかかることが挙げられていた。特に、②の課題に対する解決策を探る主旨で、今年度は、理工学部（機械創造工学科、電子情報工学科、ナノ物質工学科、臨床工学科）の 4 学科の卒業生に対して、PC やスマートフォンのブラウザからアンケートに回答してもらおうシステムを実験的に導入した。

理工学部の卒業生には、各自のスマートフォンや PC のブラウザを利用して、平成 27 年 2 月上旬から卒業式までの期間で、紙媒体と同じ質問を回答してもらった。このとき、期間内であれば回答内容の修正ができるようにした。また、重複回答を防ぐ目的で、回

答前に学籍番号とパスワード（回答者個々に異なるパスワードを設定）による個人認証を行うようにした。利用するパスワードは、紙に印刷したものを回答者に直接手渡すことで通知した。

実験的に導入したアンケートシステムは、理工学部電子情報工学科小林研究室の学生有志の協力により開発されたものである。普及しているほとんどのブラウザ上で稼働できるように、開発環境として、HTML5、JavaScript、PHP、MySQL が用いられた。また、回答者が学外でも回答できるように、アンケートシステムをレンタルサーバ上に配置した。システムの安定運用を確認するため、平成 26 年 12 月頃に約 20 名の教員・学生の協力により、運用テストを行った。

学科別の回答率等を下図に示す。

学科名	卒業者数	回答者数	回答率
機械創造工学科	16	8	50%
電子情報工学科	24	24	100%
ナノ物質工学科	14	14	100%
臨床工学科	27	24	89%
理工学部全体	81	70	86%

実施前、50%の回答率が目標であったが、結果的にはそれを大きく上回る値となった。回答期間の途中で、未回答者のリストを作成し、関係教員に連絡をしたことが功を奏したと思われる。また、記名式のアンケートであったことも回答率アップにつながったと考えている。回答内容に関しては、昨年度と比較して全体の回答傾向が大きく異なっている感じは見受けられない。

今回の試みから以下のことがわかった。

- (1) アンケートを電子化することによる回答の偏りは見受けられなかった
- (2) 記名式に変更することによる障害は見受けられなかった
- (3) パスワード通知の業務が予想以上に負担であった

6-4 改善計画（改善点）

- (1) 今年度導入したアンケートシステムの運用拡大に向けた取り組み
- (2) 昨年度より追加した記入者の属性に関する質問項目（在籍年数、GPA）による分析とその有効性
- (3) 卒業生満足度調査結果を踏まえた教育改善プログラムの構築

7. 教育環境

平成 26 年度 F D 研究部会では、今後の大学教育で行われる新たな教育学習の取り組みに大きく関与する学内の教育環境について、何か検討事項がないか模索を始めた。なお、ここで使用する「教育環境」は、物理的な施設だけにとどまらず、学習支援のための教材教具、及び情報機器やネットワーク環境を含むシステムやサービスも含んだ広い意味に設定し課題把握を試みた。

7-1 現状

(1) 学内施設情報

学内の教室に関して、授業への配分については教務部が担当しており、学期毎には「使用教室一覧表」を作成した上で、日々の使用状況と予約に関して「教室予約システム」を運用して参照できるようにしている。

施設の概要については「施設収容人員一覧」によって参照が可能ではあるが、文字だけでは実際の教室環境を想起するに足りず、教員が学内の施設を横断的に有効活用するにはもう一工夫が必要ではないかと思われる。

(2) 情報システム（教職員グループウェア、学生ポータル）

学内の情報共有の要である教職員グループウェアや学生ポータルは、基本機能等は条件が満たされているとはいえ、スマートフォンが全盛となった状況においてはシステムの使い難さが目立つようになっている。

パソコン教室などの学内コンピュータ環境についても十分な整備はなされているものの、それ以外の講義室での ICT 活用となると無線 LAN 範囲から漏れる場所も少なくないため、学生たちが情報機器を用いて学習活動を行うには更なる充実が必要となる。

学生の大学メールアドレスは Gmail ベースあることから、Google Apps for Education サービスが活用できる条件にある。しかし、無線 LAN 環境整備の現状と教員に対する Google Apps の認知が低いため、せっかくの教育インフラが活用されていない。今後は学生の手持ちのスマートフォンを活用させたり、安価な情報端末（Chromebook）購入を推奨したりするなど、普段の大学教育でも ICT を活かす方向が望まれる。

7-2 今後

教育環境に関しては、施設の改善といった大掛かりな取り組みは経済的な問題も大きくなりやすいため難しいが、学習や授業に伴う情報伝達の見通しをよくする試みについては、取り組みやすいのではないかと考えられる。たとえば Google Apps for Education の授業活用方法の習得研修などは取り組みやすいだろう。

8. おわりに

徳島文理大学では、平成 19 年 12 月の F D 研究部会発足より、授業改善活動として様々な取り組みを推進・支援してきた。

これまでの活動で、多くの教職員の賛同と援助をいただき、継続的に F D 活動に関わっていただく先生方が年々増加している。今後、すべての教職員が、様々な場面で自己の F D 活動、また学生に対するよりわかりやすく理解度の上がる広い意味での授業改善を理解、認識いただき、より F D 活動が活発になるよう更なるプログラムの充実と啓蒙に取り組んでいきたいと考えている。本年度の活動に対するご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げますとともに、明年度も一層のご支援をお願いする次第である。

9. 用語解説

【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校との連携・協働によって、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある32の高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したもの。

【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したもの。

【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたもの。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況を評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

資料編

1	F D 研究部会	15
1-1	F D 研究部会会議	
1-2	F D 研究部会委員一覧表	
1-3	F D 研究部会議事録【別 CD 資料】	
2	研修会・講演会	17
2-1	研修会・講演会実施一覧(学内)	
2-2	研修会参加一覧	
2-3	SPOD 会議・T-SPOD 会議参加一覧	
2-4	研修会・講演会プログラム及びアンケート【別 CD 資料】	
3	全学授業評価アンケート	21
3-1	後期授業評価アンケート	
3-2	平成 26(2014)年度 後期・学部全体	
3-3	平成 26(2014)年度 後期・短期大学部全体	
3-4	平成 26(2014)年度 後期・大学全体	
3-5	「学生による授業評価アンケート」実施要領	
3-6	ハイブリッド(集計データ電子)化に関するお願い	
3-7	アクションプランシート様式	
3-8	アクションプランシートデータ【別 CD 資料】	
4	研究授業	28
4-1	平成 26(2014)年度 前期 研究授業一覧	
4-2	平成 26(2014)年度 後期 研究授業一覧	
4-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	
4-4	研究授業(目標設定型)記録様式	
4-5	研究授業の記録【別 CD 資料】	
5	卒業生満足度評価アンケート	32
5-1	卒業生満足度評価アンケート	
5-2	平成 26(2014)年度 学部全体	
5-3	平成 26(2014)年度 短期大学部全体	
5-4	平成 26(2014)年度 大学全体	
5-5	平成 26(2014)年度 大学院全体	
5-6	平成 26(2014)年度 専攻科全体	
5-7	実施についての依頼	
5-8	平成 26(2014)年度 学部学科別データ【別 CD 資料】	

平成26年度 FD研究部会会議

回数	日時	会場
第63回 FD研究部会	平成26年4月21日(月) 16:30~18:00	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第64回 FD研究部会	平成26年5月27日(火) 16:30~17:50	テレビ会議
第65回 FD研究部会	平成26年6月25日(水) 16:30~18:00	テレビ会議
第66回 FD研究部会	平成26年9月2日(火) 10:00~11:30	徳島キャンパス 25号館11階会議室
第67回 FD研究部会	平成26年10月20日(月) 10:00~11:30	テレビ会議
第68回 FD研究部会	平成26年11月25日(火) 16:30~18:00	テレビ会議
第69回 FD研究部会	平成26年12月25日(木) 10:00~11:30	テレビ会議
第70回 FD研究部会	平成27年1月27日(火) 16:00~17:30	テレビ会議
第71回 FD研究部会	平成27年3月10日(火) 10:30~12:00	香川キャンパス 管理棟2階学園長室

平成26年度 F D 研究部会委員一覧表

	氏 名	所 属
部 会 長	古 田 昇	文学部
部 員	秋 田 昌 彦	薬学部
〃	北 川 明	人間生活学部
〃	森 田 敏 子	保健福祉学部(徳島 C)
〃	橋 本 誠 志	総合政策学部
〃	千 葉 さ や か	音楽学部
〃	林 向 達	短期大学部
〃	加 藤 善 久	香川薬学部
〃	上 田 雅 彦	保健福祉学部(香川 C)
〃	箕 田 康 一	理工学部
〃	小 林 郁 典	理工学部
〃	篠 田 裕	文学部
事 務 局	新 見 延 安	教育・研究支援 G(徳島 C)
〃	橋 本 典 子	〃 (~8/20)
〃	藤 本 浩 美	〃 (8/21~)
〃	佐 々 木 和 昭	教育・研究支援 G(香川 C)

平成26年度 研修会・講演会実施一覧(学内)

(1) 第1回FD研修会・講演会

日 時	平成26年9月11日(木) 13:00~17:00
演 題	SPOD 研修プログラム 講演「学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？」
講 師	岩中貴裕 (香川大学 大学教育開発センター 准教授)
場 所	徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 45名参加 香川キャンパス 図書館3階AVホール 25名参加 (徳島キャンパスから香川キャンパスへ遠隔配信)

(2) 第2回FD研修会・講演会

日 時	平成27年2月20日(金) 14:45~17:00
演 題	講演「反転授業 –主体的な学びを引き出すアクティブ ラーニングの取組–」
講 師	埴 雅典 (山梨大学工学部 教授)
座談会	「反転授業の実践報告」 工学部 小林郁典 准教授 「ベーシックウィングについて」 全学共通教育センター 中山義幸 課長
場 所	徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 42名参加 香川キャンパス 図書館3階AVホール 35名参加 (徳島キャンパスから香川キャンパスへ遠隔配信)

平成26年度 研修会参加一覧
(SPOD研修会・フォーラム等参加)

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成26年 5月14日(水) ～16日(金)	第1回大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修レベルⅠ(SD)	徳島大学 愛媛大学 SPOD	徳島大学	入試広報部 宮田佳奈 教務グループ 増本佐優美 庶務・渉外グループ 河野里沙
平成26年 5月22日(木) ～24日(土)	第1回次世代養成ゼミナール(SD)	SPOD	愛媛大学	庶務・渉外グループ 藤巻 晃
平成26年 6月10日(火)	管理監督者のためのメンタルヘルス研修	愛媛大学	愛媛大学	就職支援グループ 遠藤真由美 学生支援グループ 吉田貴和子
平成26年 6月12日(木) ～13日(金)	職員のための講師養成講座(SD)	愛媛大学 SPOD	愛媛大学	教務グループ 後藤田達也
平成26年 6月26日(木)	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座(SD)	徳島大学 SPOD	徳島大学	教務部グループ 藤本正己 近藤陽子 安藝和加
平成26年 6月28日(土) ～29日(日)	授業設計ワークショップ	徳島大学	徳島大学	香川薬学部 定本久世
平成26年 7月3日(木) ～4日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修レベルⅢ(SD)	愛媛大学 SPOD	愛媛大学	就職支援グループ 遠藤真由美
平成26年 7月18日(金) ～20日(土)	第2回次世代養成ゼミナール(SD)	SPOD	徳島大学	庶務・渉外グループ 藤巻 晃
平成26年 7月24日(木) ～25日(金)	学務系職員養成プログラム研修レベルⅠ(SD)	四国大学 SPOD 愛媛大学	四国大学	学生支援グループ 辻 めぐみ 庶務・渉外グループ 河野里沙 教務グループ 増本佐有美 近藤陽子 安藝和加
平成26年 8月22日(金)	SPOD 遠隔配信プログラム ルーブリック評価入門	愛媛大学	徳島文理大学 ※香川Cは回線遮断により、後日 学内配信で受講	徳島キャンパス 教職員 26名 香川キャンパス 予定教職員 21名

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 26 年 8 月 22 日(金)	SPOD 遠隔配信プログラム 講義のための話し方入門	愛媛大学	徳島文理大学 ※香川Cは回線遮断により、後日 学内配信で受講	徳島キャンパス 教職員 21 名 香川キャンパス 予定教職員 28 名
平成 26 年 8 月 27 日(水) ～29 日(金)	SPOD フォーラム 2014	SPOD 愛媛大学 高知大学	高知大学	人間生活学部 黒澤良輔 保健福祉学部 多田羅勝義 細川つや子 文学部 古田 昇 理工学部 小林郁典 水野貴之 庶務・渉外グループ 藤巻 晃 教務部グループ 藤本正己
平成 26 年 9 月 1 日(月)	学生の学びを支援する授業 準備ワークショップ	高知大学	高知大学	香川薬学部 岸本泰司
平成 26 年 9 月 9 日(火)	SPOD 遠隔配信プログラム 大人数講義法の基本	愛媛大学	徳島文理大学 (徳島・香川)	徳島キャンパス 教職員 11 名 香川キャンパス 教職員 16 名
平成 26 年 9 月 18 日(木) ～19 日(金)	よりよい授業のための FDワークショップ	香川大学	休暇村 讃岐五色台	香川薬学部 竹内 一
平成 26 年 9 月 25 日(木)	桃太郎フォーラム XVII	岡山大学教育 開発センター	岡山大学	教育・研究支援 グループ 新見延安
平成 26 年 10 月 23 日(木) ～24 日(金)	第 2 回大学人・社会人とし ての基礎力養成プログラム 研修レベル I (SD)	愛媛大学 SPOD	愛媛大学	教務グループ 近藤陽子
平成 26 年 11 月 6 日(木) ～7 日(金)	第 3 回次世代養成ゼミナ ール (SD)	SPOD	愛媛大学	庶務・渉外グループ 藤巻 晃
平成 26 年 11 月 22 日(土)	JABEE-日工教共催 反転授業に関するワークシ ョップ	日本技術者教 育認定機構 日本工学教育 協会	日本大学 理工学部	理工学部 小林郁典
平成 26 年 12 月 15 日(月)	広島文化学園大学公開講座 「主体的学びにつなげる」 評価と学習法	広島文化学園 大学 FD委員会	広島文化 学園大学	文学部 古田 昇 理工学部 小林郁典

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 26 年 12月 26 日(金)	大学教育カンファレンス in 徳島	徳島大学FD 委員会 SPOD	徳島大学	教育・研究支援 グループ 新見延安
平成 27 年 2月 28(土) ～3月 1 日(日)	2014 年度 第 20 回FDフォーラム 「学修支援を問う」	公益財団法人 大学コンソー シアム京都 同志社大学	同志社大学	文学部 篠田 裕
平成 27 年 3月 13 日(金) ～14(土)	平成 26 年度 第 21 回大学教育研究フォ ーラム	京都大学高等 教育研究開発 推進センター	京都大学	文学部 古田 昇

2-3

平成 2 6 年度 SPOD 会議・T-SPOD 会議参加一覧

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成 26 年 10月 22 日(水)	第 1 回 T-SPOD 会議	T-SPOD	徳島大学 開放実践 センター	教育・研究支援 グループ 新見延安
平成 27 年 3月 27 日(金)	平成 26 年度 「四国地区大学教員能力 開発ネットワーク」総会 及びFD/SD分科会	SPOD	愛媛大学	文学部 古田 昇 教育・研究支援 グループ 新見延安

T-SPOD：徳島県内 SPOD 加盟校(8 校)

平成 26(2014)年度 後期授業評価アンケート

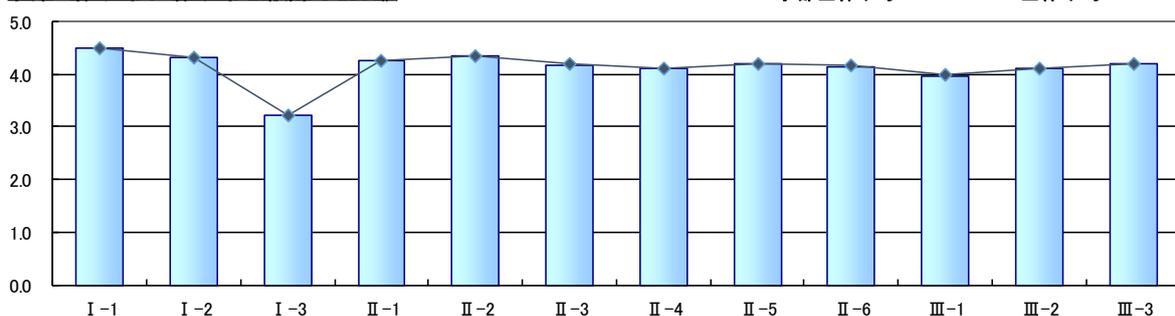
実施期間	第3クォーター 平成26年11月10日(月)～11月21日(金) 後期・第4クォーター 平成27年1月7日(水)～1月26日(月)
実施科目・履修者数	825科目 35,369 回答者数 29,157 回答率 82.4%
アクションプランシート 記入期間	平成27年3月2日(月)～3月16日(月)
アクションプランシート 記載状況	88.7% (徳島 87.5%、香川 91.0%)

集計単位	学部全体
------	------

受講者数	32,873
回答者数	27,051

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.50	16,819 62.4%	7,544 28.0%	1,973 7.3%	508 1.9%	131 0.5%	26,975	76
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.32	12,467 46.2%	11,308 41.9%	2,664 9.9%	419 1.6%	147 0.5%	27,005	46
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.23	4,919 18.3%	7,060 26.2%	7,733 28.7%	3,734 13.9%	3,475 12.9%	26,921	130
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.25	12,183 45.3%	10,059 37.4%	4,128 15.3%	350 1.3%	177 0.7%	26,897	154
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.35	14,096 52.2%	9,389 34.8%	2,713 10.1%	515 1.9%	273 1.0%	26,986	65
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.18	12,457 46.1%	9,194 34.1%	3,556 13.2%	1,215 4.5%	573 2.1%	26,995	56
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.11	11,468 42.5%	9,552 35.4%	4,004 14.8%	1,318 4.9%	634 2.4%	26,976	75
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.19	11,813 43.9%	9,928 36.9%	4,023 14.9%	834 3.1%	334 1.2%	26,932	119
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.15	11,815 43.9%	9,401 34.9%	4,172 15.5%	1,045 3.9%	477 1.8%	26,910	141
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	3.97	8,470 31.4%	11,789 43.7%	4,737 17.6%	1,414 5.2%	539 2.0%	26,949	102
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.12	10,455 38.8%	10,958 40.7%	4,189 15.5%	932 3.5%	416 1.5%	26,950	101
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.20	11,966 44.5%	9,994 37.1%	3,735 13.9%	776 2.9%	447 1.7%	26,918	133
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			39.8%	32.3%	23.1%	2.1%	2.7%	334	26,717
2			39.9%	31.4%	23.9%	2.0%	2.7%	293	26,758
3			39.7%	32.4%	23.3%	1.7%	2.8%	287	26,764

学部全体平均と全体平均との設問ごとの比較

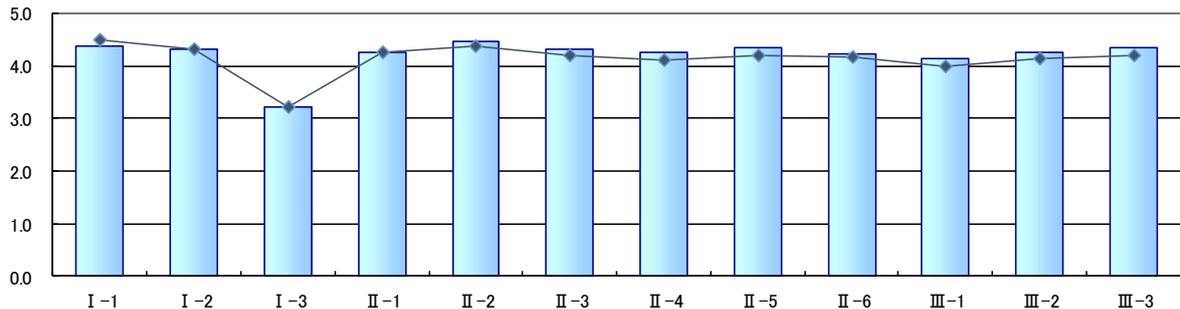


集計単位	短期大学部全体	受講者数	2,496
		回答者数	2,106

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.38	1,164 55.3%	684 32.5%	168 8.0%	68 3.2%	22 1.0%	2,106	0
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.33	932 44.3%	970 46.1%	172 8.2%	20 1.0%	10 0.5%	2,104	2
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.22	327 15.6%	583 27.7%	659 31.4%	297 14.1%	236 11.2%	2,102	4
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.26	935 44.5%	822 39.2%	312 14.9%	21 1.0%	9 0.4%	2,099	7
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.45	1,198 57.0%	713 33.9%	150 7.1%	27 1.3%	14 0.7%	2,102	4
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.32	1,075 51.1%	736 35.0%	203 9.7%	59 2.8%	30 1.4%	2,103	3
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.26	1,010 48.0%	754 35.8%	245 11.6%	65 3.1%	31 1.5%	2,105	1
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.34	1,077 51.3%	743 35.4%	223 10.6%	37 1.8%	21 1.0%	2,101	5
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.22	953 45.4%	771 36.7%	285 13.6%	60 2.9%	30 1.4%	2,099	7
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.13	759 36.1%	984 46.8%	267 12.7%	66 3.1%	28 1.3%	2,104	2
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.24	929 44.1%	862 41.0%	231 11.0%	58 2.8%	25 1.2%	2,105	1
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.35	1,109 52.8%	702 33.4%	225 10.7%	41 2.0%	23 1.1%	2,100	6
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			45.7%	30.4%	17.4%	4.3%	2.2%	46	2,060
2			44.7%	34.2%	13.2%	2.6%	5.3%	38	2,068
3			45.9%	29.7%	18.9%	2.7%	2.7%	37	2,069

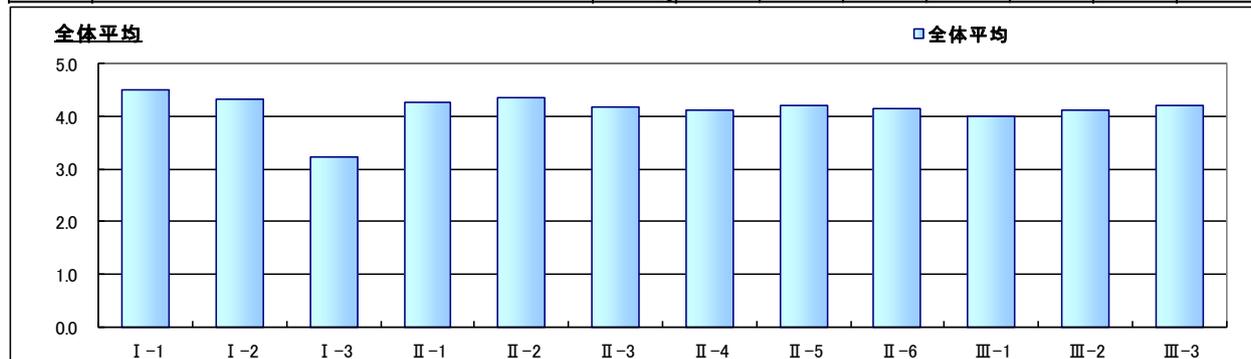
短期大学部全体平均と全体平均との設問ごとの比較

短期大学部全体平均 (青い棒) 全体平均 (青い線)



受講者数	35,369
回答者数	29,157

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.49	17,983 61.8%	8,228 28.3%	2,141 7.4%	576 2.0%	153 0.5%	29,081	76
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.32	13,399 46.0%	12,278 42.2%	2,836 9.7%	439 1.5%	157 0.5%	29,109	48
3	あなたはこの授業に関して、予習復習を行いましたか	3.23	5,246 18.1%	7,643 26.3%	8,392 28.9%	4,031 13.9%	3,711 12.8%	29,023	134
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.25	13,118 45.2%	10,881 37.5%	4,440 15.3%	371 1.3%	186 0.6%	28,996	161
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.36	15,294 52.6%	10,102 34.7%	2,863 9.8%	542 1.9%	287 1.0%	29,088	69
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.19	13,532 46.5%	9,930 34.1%	3,759 12.9%	1,274 4.4%	603 2.1%	29,098	59
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.12	12,478 42.9%	10,306 35.4%	4,249 14.6%	1,383 4.8%	665 2.3%	29,081	76
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.20	12,890 44.4%	10,671 36.8%	4,246 14.6%	871 3.0%	355 1.2%	29,033	124
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.16	12,768 44.0%	10,172 35.1%	4,457 15.4%	1,105 3.8%	507 1.7%	29,009	148
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段: 回答数/下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	3.98	9,229 31.8%	12,773 44.0%	5,004 17.2%	1,480 5.1%	567 2.0%	29,053	104
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.13	11,384 39.2%	11,820 40.7%	4,420 15.2%	990 3.4%	441 1.5%	29,055	102
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.21	13,075 45.1%	10,696 36.9%	3,960 13.6%	817 2.8%	470 1.6%	29,018	139
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			40.5%	32.1%	22.4%	2.4%	2.6%	380	28,777
2			40.5%	31.7%	22.7%	2.1%	3.0%	331	28,826
3			40.4%	32.1%	22.8%	1.9%	2.8%	324	28,833



「学生による授業評価アンケート」実施要領

平成26年12月
徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

上記のアンケートの実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

1. アンケートは授業担当者が配布し、趣旨・記入方法等を説明してください。
2. 回収と提出は、原則として授業担当者以外(例：各クラス委員、受講代表者など)が行ってください。なお、回収後、直ちに下記の提出場所に提出してください。
3. アンケート実施期間
平成27年1月7日(水)～1月26日(月)
4. 提出期限：各アンケート実施当日
5. 提出場所：徳島キャンパス 1号館1階 教務グループカウンターまたは
25号館6階 教育・研究支援グループ
香川キャンパス 各学部事務室

【記入方法及び注意事項】

1. 他学部の学生が履修している科目がありますが、区別せずに実施してください。
2. アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
3. マークシートを学生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入には**HBの鉛筆**または**シャープペンシル**を使用するように指示してください。
6. マークシートの「年度」「所属学部」「学年」「科目コード」を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・14
「所属学部」・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
7. 回答には**約15分間**かけてください。
8. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
9. その他 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス 藤本(内線：8664)
香川キャンパス 田中(内線：7552)

教員各位

F D 研究部会

授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）

日頃は、本学の F D 活動にご理解ご支援いただき、誠にありがとうございます。また、学生による授業評価アンケートへのご協力、心より感謝申し上げます。

さて、今年度実施しました、後期及び第 3 クォーター・第 4 クォーターのアンケート結果がまとまりましたのでお届けいたします。

本学では、平成 20 年度から学生の授業への取組みや授業内容・方法についてアンケートを取るとともに、その集計結果を担当教員にお返しし、担当教員は結果をもとに授業の在り方や改善点を作成して、学生にフィードバックしております。授業評価アンケートは、学生が教員の授業を評価するだけのものではなく、アンケート結果をもとによりよい授業の在り方を考えていくためのものです。これにより、教員は授業に対する改善点が発見でき、学生は授業への取組みを向上させる契機ともなります。

そこで、以下の要領でアンケート結果に対するフィードバック「アクションプランシート」の記入をお願いいたします。

- ①封筒の中には、アンケート用紙と集計結果表が入っています。感想の欄は集計されませんので担当の先生でご活用ください。
なお、アンケート用紙は、担当の先生方で 1 年間（平成 28 年 3 月末まで）保管していただき、それ以降は各自で処分してください。
- ② 2 月 27 日（金）に各先生方のメールアドレスに、ログイン ID とパスワードの案内、アクションプランシート作成依頼のメールが担当業者（教育ソフトウェア）から送られてきます。
- ③メール到着後から、今回のアンケート集計結果と過去のアンケート結果をウェブ上で閲覧でき、経年比較による分析もできます。
- ④アンケート結果の閲覧やアクションプランシートの記入は、送られてきた ID ・パスワードを入力して、ウェブ上で実行してください。
 記入項目は「アンケート結果に対するコメント」「今後の授業に向けて」です。
- ⑤アクションプランシート入力期間：3 月 2 日（月）～3 月 16 日（月）
 （入力期間を過ぎると入力できなくなるので、ご注意ください。）
 なお、詳細は 操作マニュアル を参照してください。

※その他ご不明な点につきましては、下記『教育・研究支援グループ』担当まで連絡をお願いいたします。

徳島キャンパス：新見 延安 nobuyasu@tks.bunri-u.ac.jp

香川キャンパス：佐々木和昭 ssk@kgw.bunri-u.ac.jp

3-7 アクションプランシート

アクションプランシート

2014 年度後期 曜日 ()

科目名 : ()

教員名 : ()

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

平成26年度前期 研究授業

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
6月27日	金	3	薬	薬学1年	物理化学1	40015	伊藤卓也	14502
7月7日	月	2	保健福祉	看護2年	ヘルスアセスメント論	10414	宮川 操	3807

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
4月7日	月	—	文	日・英・財1年	宿泊セミナー研修①	—	青木 毅・原田耕太郎 大久保徹也・田子孝仁	香川県立屋島 少年自然の家
4月8日	火	—	文	日・英・財1年	宿泊セミナー研修②	—	青木 毅・原田耕太郎 大久保徹也・田子孝仁	香川県立屋島 少年自然の家
7月11日	金	1	文	日本文2～4年	日本語学概論A	00151	近藤政行	201

平成26年度後期 研究授業

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
10月9日	木	1	保健福祉	看護3年	在宅看護援助論	10396	高見千恵	3807
10月30日	木	3	人間生活	心理2年 人間生活3年	免疫学	54948	坂井隆志	9303
10月30日	木	5	人間生活	心理2年 人間生活3年	精神保健学	54868	中島富美子	9303
11月10日	月	3	人間生活	生活3年、栄養2年 建築1年、生活科学	家族関係学	55117	水島かな江	23301
11月17日	月	1	人間生活	児童3年	教育相談	16181	馬場園陽一	9303
11月20日	木	3	総合政策	総合政策4年	高齢社会論	54982	松本哲人	23301
11月21日	金	1	薬	薬学3年	生体分子構造学	45050	江角朋之	24301
11月27日	木	3	人間生活	建築デザイン3年	住宅設備Ⅱ	10327	山田 實	231108
12月1日	月	3	人間生活	メディアデザイン 1年	情報数学Ⅱ	54839	矢野米雄	9501
目標設定型								
9/20(土)~2/2(月)			音楽	音楽1~4年	音楽鑑賞		ジョゼッペ・マリオッティ	
オープンクラスウィーク								
11/24(月)~11/28(金)			短期大学部	全学科	所属教員担当全科目			

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科・学年	科目	シラバス 科目番号	授業者	教室
10月28日	火	2	理工	機械創造工1年	システム工学概論	00295	樋口峰夫	10号館4階ゼミ室
12月11日	木	2	文	英語英米文化2年	英文法Ⅱ	00436	阿部晃直	研3F講(2)
12月12日	金	2	香川薬	薬学2年	薬理学2	00350	栗生俊彦	203
目標設定型								
12月5日	金	1	理工	電気情報工3年	情報応用工学演習B	00201	小林郁典	10号館工302室
2月12日	木	—	理工	ナノ物質工	プロジェクトラボB	00217	ナノ全教員	授業公開なし
オープンクラスウィーク								
10/27(月)~10/31(金)			理工	全学科	所属教員担当全科目			
12/8(月)~12/12(金)			文	英語英米文化	所属教員担当全科目			

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生 (授業形態)	()		
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観者数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目			
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

平成 26 (2014) 年度
卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成 27 年度 3 月 13 日 (金) ~ 3 月 19 日 (木)
実施人数	学部 (970 名) ・ 研究科 (18 名) ・ 専攻科 (14 名)、1002 名
回答数 ・ 回答率	959 名 95.7%

対象者数	878
回答者数	836

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	366	463	7
	43.8%	55.4%	0.8%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	7	657	153	8	1	10
	0.8%	78.6%	18.3%	1.0%	0.1%	1.2%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	635	48	140	13
	76.0%	5.7%	16.7%	1.6%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	12	77	336	221	27	163
	1.4%	9.2%	40.2%	26.4%	3.2%	19.5%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.18	332 39.7%	365 43.7%	103 12.3%	26 3.1%	10 1.2%	836	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.04	266 31.9%	394 47.2%	129 15.4%	32 3.8%	14 1.7%	835	1
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.13	345 41.4%	319 38.2%	117 14.0%	37 4.4%	16 1.9%	834	2
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.26	369 44.6%	340 41.1%	92 11.1%	17 2.1%	10 1.2%	828	8
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	3.96	292 35.1%	304 36.6%	167 20.1%	49 5.9%	19 2.3%	831	5
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.27	133 16.0%	184 22.1%	344 41.3%	115 13.8%	57 6.8%	833	3

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.03	329 39.4%	288 34.5%	157 18.8%	37 4.4%	23 2.8%	834	2
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.02	330 39.6%	278 33.4%	162 19.4%	40 4.8%	23 2.8%	833	3
3	図書館は利用しやすかったですか	4.04	337 40.5%	283 34.0%	148 17.8%	42 5.0%	23 2.8%	833	3
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.00	306 36.8%	314 37.7%	145 17.4%	42 5.0%	25 3.0%	832	4
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.16	332 40.0%	335 40.4%	132 15.9%	25 3.0%	6 0.7%	830	6
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.08	347 41.7%	287 34.5%	134 16.1%	47 5.6%	18 2.2%	833	3

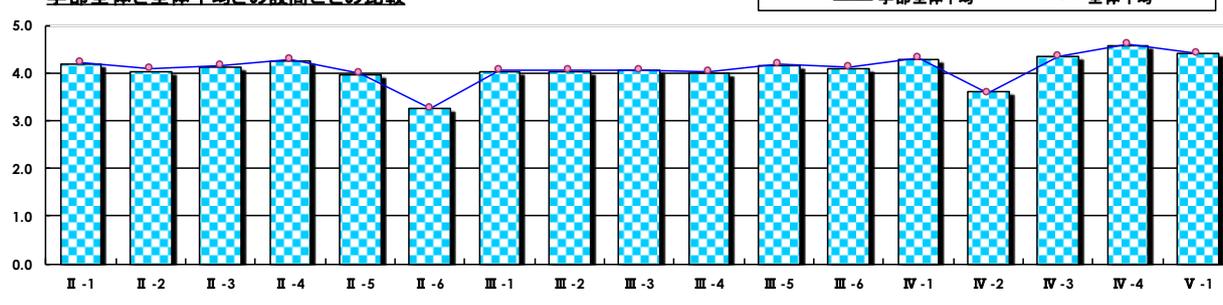
IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.29	400 48.0%	312 37.5%	95 11.4%	18 2.2%	8 1.0%	833	3
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.60	231 27.8%	215 25.9%	268 32.3%	57 6.9%	60 7.2%	831	5
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.36	447 53.6%	270 32.4%	93 11.2%	16 1.9%	8 1.0%	834	2
4	よき友と出会えましたか	4.58	572 68.6%	190 22.8%	62 7.4%	4 0.5%	6 0.7%	834	2

V. 総合評価

No.	設問文	学部全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.40	443 53.8%	284 34.5%	81 9.8%	11 1.3%	4 0.5%	823	13

学部全体と全体平均との設問ごとの比較



対象者数	93
回答者数	92

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	9 9.8%	83 90.2%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	91 98.9%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	67 72.8%	12 13.0%	13 14.1%	0 0.0%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	0 0.0%	10 10.9%	23 25.0%	16 17.4%	2 2.2%	41 44.6%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.48	50	36	6	0	0	92	0
			54.3%	39.1%	6.5%	0.0%	0.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.38	41	45	6	0	0	92	0
			44.6%	48.9%	6.5%	0.0%	0.0%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.40	50	32	8	1	1	92	0
			54.3%	34.8%	8.7%	1.1%	1.1%		
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.48	53	31	5	2	0	91	1
			58.2%	34.1%	5.5%	2.2%	0.0%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.29	49	25	15	2	1	92	0
			53.3%	27.2%	16.3%	2.2%	1.1%		
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.27	12	25	37	10	7	91	1
			13.2%	27.5%	40.7%	11.0%	7.7%		

III. 大学の施設および支援体制について

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.23	39	36	14	2	0	91	1
			42.9%	39.6%	15.4%	2.2%	0.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.26	42	35	13	1	1	92	0
			45.7%	38.0%	14.1%	1.1%	1.1%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.00	37	24	26	4	1	92	0
			40.2%	26.1%	28.3%	4.3%	1.1%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.18	43	26	17	5	0	91	1
			47.3%	28.6%	18.7%	5.5%	0.0%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.42	49	35	6	2	0	92	0
			53.3%	38.0%	6.5%	2.2%	0.0%		
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.42	48	36	7	1	0	92	0
			52.2%	39.1%	7.6%	1.1%	0.0%		

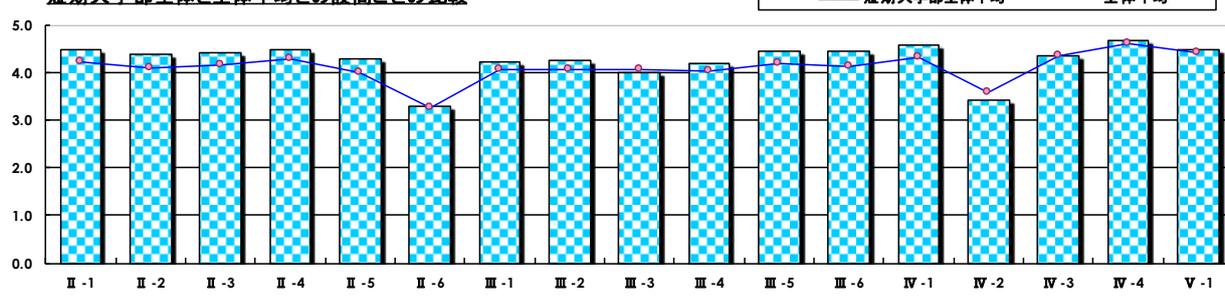
IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.57	58	30	3	0	1	92	0
			63.0%	32.6%	3.3%	0.0%	1.1%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.41	24	16	34	10	8	92	0
			26.1%	17.4%	37.0%	10.9%	8.7%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.34	53	23	12	2	2	92	0
			57.6%	25.0%	13.0%	2.2%	2.2%		
4	よき友と出会えましたか	4.66	66	23	1	2	0	92	0
			71.7%	25.0%	1.1%	2.2%	0.0%		

V. 総合評価

No.	設問文	短大全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.48	56	25	10	1	0	92	0
			60.9%	27.2%	10.9%	1.1%	0.0%		

短期大学部全体と全体平均との設問ごとの比較



対象者数	971
回答者数	928

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	375 40.4%	546 58.8%	7 0.8%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	98 10.6%	658 70.9%	153 16.5%	8 0.9%	1 0.1%	10 1.1%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	702 75.6%	60 6.5%	153 16.5%	13 1.4%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	12 1.3%	87 9.4%	359 38.7%	237 25.5%	29 3.1%	204 22.0%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.21	382	401	109	26	10	928	0
			41.2%	43.2%	11.7%	2.8%	1.1%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.07	307	439	135	32	14	927	1
			33.1%	47.4%	14.6%	3.5%	1.5%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.15	395	351	125	38	17	926	2
			42.7%	37.9%	13.5%	4.1%	1.8%		
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.28	422	371	97	19	10	919	9
			45.9%	40.4%	10.6%	2.1%	1.1%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.00	341	329	182	51	20	923	5
			36.9%	35.6%	19.7%	5.5%	2.2%		
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.27	145	209	381	125	64	924	4
			15.7%	22.6%	41.2%	13.5%	6.9%		

III. 大学の施設および支援体制について

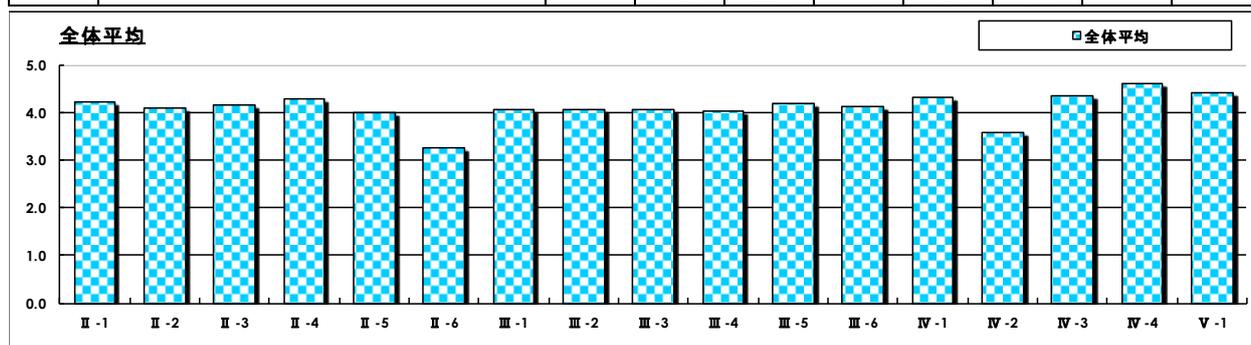
No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.05	368	324	171	39	23	925	3
			39.8%	35.0%	18.5%	4.2%	2.5%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.05	372	313	175	41	24	925	3
			40.2%	33.8%	18.9%	4.4%	2.6%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.04	374	307	174	46	24	925	3
			40.4%	33.2%	18.8%	5.0%	2.6%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.02	349	340	162	47	25	923	5
			37.8%	36.8%	17.6%	5.1%	2.7%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.19	381	370	138	27	6	922	6
			41.3%	40.1%	15.0%	2.9%	0.7%		
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.11	395	323	141	48	18	925	3
			42.7%	34.9%	15.2%	5.2%	1.9%		

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.32	458	342	98	18	9	925	3
			49.5%	37.0%	10.6%	1.9%	1.0%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.58	255	231	302	67	68	923	5
			27.6%	25.0%	32.7%	7.3%	7.4%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.36	500	293	105	18	10	926	2
			54.0%	31.6%	11.3%	1.9%	1.1%		
4	よき友と出会えましたか	4.59	638	213	63	6	6	926	2
			68.9%	23.0%	6.8%	0.6%	0.6%		

V. 総合評価

No.	設問文	全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.41	499	309	91	12	4	915	13
			54.5%	33.8%	9.9%	1.3%	0.4%		



対象者数	17
回答者数	17

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	8	9	0
	47.1%	52.9%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	14	1	1	1	0	0
	82.4%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	12	0	5	0
	70.6%	0.0%	29.4%	0.0%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	0	0	1	14	2	0
	0.0%	0.0%	5.9%	82.4%	11.8%	0.0%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.35	10 58.8%	5 29.4%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	17	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.41	9 52.9%	6 35.3%	2 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	17	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.18	7 41.2%	6 35.3%	4 23.5%	0 0.0%	0 0.0%	17	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.41	11 64.7%	4 23.5%	1 5.9%	0 0.0%	1 5.9%	17	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.18	10 58.8%	4 23.5%	1 5.9%	0 0.0%	2 11.8%	17	0
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.00	2 11.8%	5 29.4%	5 29.4%	1 5.9%	4 23.5%	17	0

III. 大学の施設および支援体制について

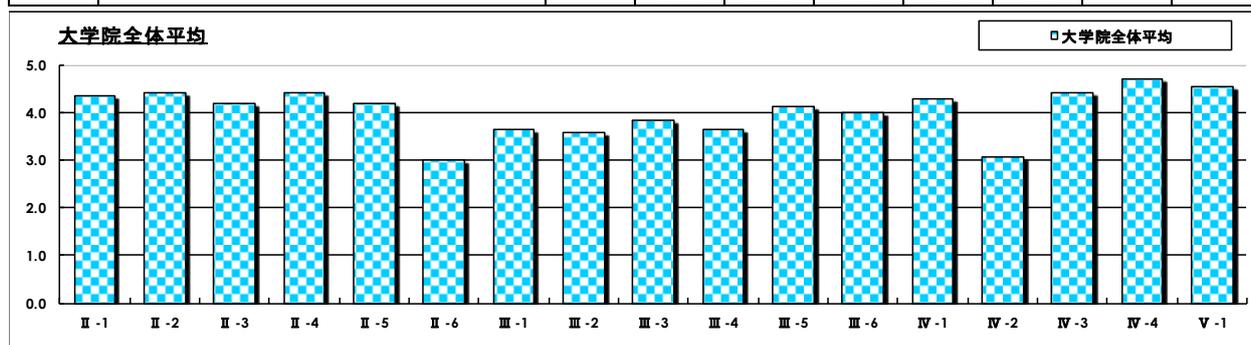
No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.65	4 23.5%	6 35.3%	4 23.5%	3 17.6%	0 0.0%	17	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3.59	5 29.4%	4 23.5%	5 29.4%	2 11.8%	1 5.9%	17	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.82	3 17.6%	9 52.9%	4 23.5%	1 5.9%	0 0.0%	17	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.65	3 17.6%	7 41.2%	5 29.4%	2 11.8%	0 0.0%	17	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.12	8 47.1%	5 29.4%	2 11.8%	2 11.8%	0 0.0%	17	0
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.00	7 41.2%	6 35.3%	2 11.8%	1 5.9%	1 5.9%	17	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.29	8 47.1%	7 41.2%	1 5.9%	1 5.9%	0 0.0%	17	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.06	4 23.5%	2 11.8%	6 35.3%	1 5.9%	4 23.5%	17	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.41	10 58.8%	6 35.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	17	0
4	よき友と出会えましたか	4.71	13 76.5%	3 17.6%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	17	0

V. 総合評価

No.	設問文	大学院全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.53	11 64.7%	4 23.5%	2 11.8%	0 0.0%	0 0.0%	17	0



対象者数	14
回答者数	14

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	1 7.1%	13 92.9%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1, 2年	3, 4年	5, 6年	7, 8年	9年以上	無効
	11 78.6%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	12 85.7%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%

GPA	1.0未満	1点台	2点台	3点台	4.0以上	無効
	0 0.0%	3 21.4%	6 42.9%	2 14.3%	0 0.0%	3 21.4%

II. 授業・教育課程について(全体として)

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.71	10 71.4%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.57	8 57.1%	6 42.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.64	9 64.3%	5 35.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
4	教育に対する教員の熱意は感じられましたか	4.93	13 92.9%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.86	12 85.7%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
6	宿題やレポート提出が多いと感じていましたか	3.79	5 35.7%	3 21.4%	4 28.6%	2 14.3%	0 0.0%	14	0

III. 大学の施設および支援体制について

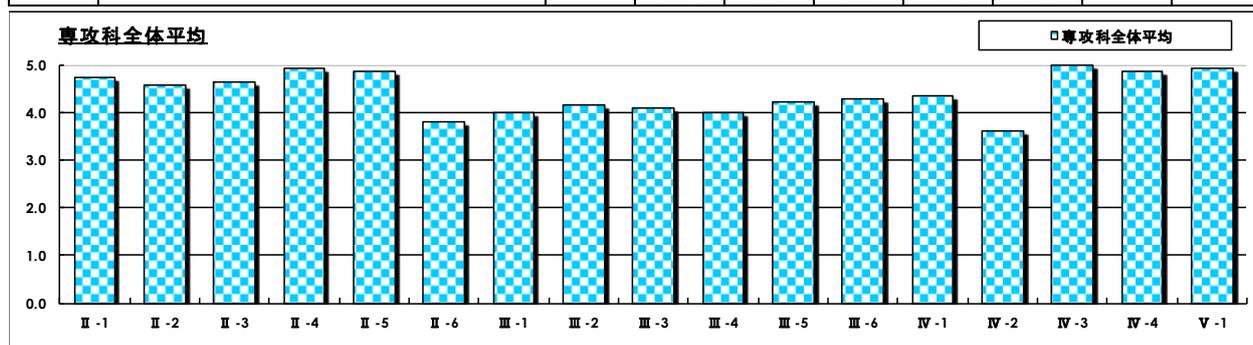
No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.00	6 42.9%	5 35.7%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	14	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.14	6 42.9%	5 35.7%	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	14	0
3	図書館は利用しやすかったですか	4.07	6 42.9%	5 35.7%	2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	14	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.00	6 42.9%	4 28.6%	3 21.4%	0 0.0%	1 7.1%	14	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.21	8 57.1%	3 21.4%	2 14.3%	0 0.0%	1 7.1%	14	0
6	食堂や売店・コンビニは利用しやすかったですか	4.29	10 71.4%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	14	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.36	10 71.4%	0 0.0%	3 21.4%	1 7.1%	0 0.0%	14	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.62	5 38.5%	3 23.1%	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	13	1
3	頼りになる教員に出会えましたか	5.00	14 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0
4	よき友と出会えましたか	4.86	12 85.7%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0

V. 総合評価

No.	設問文	専攻科全体 平均点	上段: 回答数/下段: 回答率(%)					有効 回答	無効 回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.93	13 92.9%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14	0



各大学院・研究科長 殿

各専攻科長 殿

各学部・学科長 殿

F D研究部会

「卒業生満足度評価アンケート」の実施について(ご依頼)

標題のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

- 1 卒業式当日の実施を原則としますが、その前後で各大学院・研究科、専攻科、学部・学科の都合の良い日に実施して下さって結構です。
- 2 アンケート実施の趣旨を以下のようにご説明ください。
「この調査は、卒業生の皆さんの本学の教育内容や施設、学園生活などに対する満足度を調査し、今後の教育の充実と改善に資するために行うものです。そのため、一人ひとりの卒業生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。」
- 3 マークシートを卒業生1名につき1枚配布してください。
- 4 マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
- 5 記入にはHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用するように指示してください。
- 6 マークシートの「年度」「所属コード」欄に記入・マークする数字は、次のようにご指示ください。
「年度」・・・14
「所属コード」・・・封筒ラベル参照
- 7 回答には約15分間かけてください。
- 8 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
- 9 提出期限：3月19日(木)12:00 厳守でお願いします。
- 10 提出場所：徳島キャンパス 25号館6階 教育・研究支援グループ
香川キャンパス 各学部事務室
- 11 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス 藤本(内線：8664)
香川キャンパス 田中(内線：7552)

F D研究部会活動報告書 第6号

平成26年4月～平成27年3月

平成27年7月発行

編集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部F D研究部会		
発行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度 1314-1 電話：087-894-5111(代表)
